



(左から)沼田さん、高藤さん、大宮さん、馬海さん

## 弁護士目指す大宮さん(福島)

高校生が検察官役と弁護士役に分かれ、架空の刑事事件を題材に裁判で主張を競う「高校生模擬裁判選手権」が8月3日、対面やオンラインで開かれ、本県代表として福島高の2年生4人が出場する。4人は実際の検察官や弁護士の指導を受けて準備を進めており、「刺激のある経験。将来の希望につなげたい」と目を輝かせている。

### 同級生4人で選手権出場

同校の出場は2年ぶり2度目。出場するオンライン大会は抽選で選ばれた4校が競う。今回の出場は、チーム代表を務める大宮彩和子さん(16)が法曹業界に寄せた熱い思いがきっかけだった。

大宮さんは授業で法律に触れる中、「細部まで工夫されており、人の英知を感じた」と興味を湧かされた。人の話を聞くのが好きだったこともあり、次第に弁護士になることが目標となった。昨年11月には、郡山市で開かれた女性弁護士の仕事を紹介する講演会に参加し、「弁護士になるためにできることは何か」と質問するなど、将来を見据えた活動を続けている。熱心な姿は講演会に参加していた紺野明弘弁護士の目に留まり、選手権への参加を提案されたという。紺野氏によると、県弁護士会に所属する約200人の弁護士のうち、女性は1割程度

**Q** 高校生模擬裁判選手権 多角的な視点で考える力や、意見を分かりやすく伝える力を育成するのが目的で、日弁連が主催する。一つの刑事事件を題材に、高校生が検察官役と弁護士役になり、証人尋問や被告人質問、論告弁論を準備した上で、実際の訴訟活動を行う。今回のテーマは殺人罪。各出場校が2回模擬裁判に挑み、検察官役と弁護士役を1回ずつ務める。裁判官や検察官、弁護士らが審査し、弁論の構成、表現、説得力のある主張かどうかを採点する。

▲ 7月24日 福島民友新聞掲載

大宮さんはどのような経緯で模擬裁判選手権に出場することになりましたか。

大宮さんら4人は模擬裁判に向けてどのような準備をしていますか。

福島県は弁護士の女性割合が1割とのことですが、このことについてみなさんはどう考えますか。